



小菅先生を囲む現代社会コースの同窓生

続いて、小篠一英(79)の司会の下にパーティーに移り、来賓を代表してまず小松寿雄学部長より挨拶があり、教養学部が近年中に改組となるのに伴い、学部の名称変更が現在検討されていることが報告されました。続いて乾杯の音頭を小菅稔名誉教授

副会長・櫻井雅英(74)よりこの一年間の活動報告が、続いて同・石田義明(75)から九一年度の会計報告が行われました。その後、役員任期を定めた「会則」の第八条について動議が出され、「二年」とある任期を「一年」に変更すること、「役員任期は一年として、再任を妨げない」が承認された後、酒井会長より大阪転勤に伴い十分な活動ができなくなったことを理由に辞退の申し出があり、後任として推薦された武井尚(70)の下で新たに出席することが、満場の拍手のなかで了承されました。

このように、当日の総会及び懇親会自体は成功裡に終わりましたが、主催者である理事会の力量の限界などもあって、反省すべき点も残されました。なかでも最大の問題点は、当初、昨年の一六一名を上回る二〇

最後に、同窓生の中から寄贈されたキングレコード、西武百貨店、東芝EMI、ソニーME等の製品をめぐって抽選会が行われ、大いに盛り上がりました。最大の呼び物であったパソコン「マッキントッシュ」(購入品)は見事、沼田安功氏(72)が引き当てました。ご協力下さった皆様にはこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。



小松・田代両先生を囲む日本文化コースの同窓生

〇名の参加を予定したにもかかわらず、出席者は九〇名足らずであったため、結果的に約三〇万円の赤字を計上してしまつたことです。同窓会の会計から一時的に補填することが先の理事会で了承されましたが、実は同窓会の財政そのものが逼迫しており、事はそれほど容易ではありません。来年の総会については、時期や場所を始め徹底的に検討し直した上で、さらに一層の努力を払うつもりではありますが、先生方や同窓生の皆様にも、是非一人でも多く御参加下さいますようお願い申し上げます。

# 埼玉大学教養学部 同窓会だより

第 2 号

埼玉大学教養学部  
同窓会事務局

## 第二回総会開催される

去る六月六日、池袋サンシャイン・プリンスホテル二階にて、埼玉大学教養学部同窓会第二回総会が開催されました。

最初に総会が開かれ、まず会長(酒井憲太郎・70年卒)の挨拶の後、

## 同窓会会長あいさつ

武井 尚



去る六月六日の第二回同窓会において、初代会長酒井憲太郎氏のあとを引継ぎ、第二代会長就任を承認されました。酒井前会長は同窓会準備会の世話役代表・同設立発起人代表として活躍され、第一回総会直前に大阪へ転動されたにもかかわらず初代会長に就任、多忙の中、上京の折には必ず理事会に出席されるなど、同窓会の運営に御尽力いただきました。深く感謝申し上げます。

と同時に、酒井前会長とは正反対のタイプの私が会長として、どこまで同窓会を円滑に運営していけるか、強く任の重みを感じております。さて、同窓会は二年目を迎え、新たな発展のために基礎固めをしなければなりません。そのために、当面は次のことが大きな課題であると考えます。一つは財政基盤の確立、もう一つは未加入同窓生の同窓会加入

促進であります。

同窓会の活動といえば、年一回の総会がもっとも大きな事業であることはいままでもありません。しかし、同窓会は総会のためにものであるのではなく、日常の活動、つまり理事会の開催、名簿管理、同窓生の情報交換、同窓会だよりの編集などに、多くの費用と時間を要しています。この日常活動を支えるためには、常に一定の資金が必要であることは論を俟ちません。この資金を安定して確保するには、同窓会会員の増加が必要であります。そこで、未入会同窓生の加入を促進する活動を行なわなければならないと考えます。加入促進は卒業生のみならず、在学生に対しても同窓会の存在を強く認識されるような広報なり、就職懇談会のような交流の場を通しての働きかけなどが考えられます。同窓会の財政基盤と同窓会会員の増加は不即不離の関係にあります。同窓会発展のために、会員の皆様の御協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

## 《先生方のメッセージ》

感慨を込めて

西田 馨



昭和六二年三月末に教養学部を去ってから、もう五年以上も経ってしまい、学生諸君につい

ては当然のことですが、先生方の名簿も三分の一が新しいお名前になっており、今、大学を訪れたら、申し訳ない言い方ですが、恐らく半ば違和感のようなものを感じるのではないかと思います。あと五年も経てば、全く未知の世界になりかねません。こんな時期に教養学部同窓会が産声をあげたことは、私にとっては、ある意味で、自分のアイデンティティをそこに確認できるわけですから、こんな嬉しいことはありません。私は現在、城西大学女子短期大学部で英文学を教えています。まだ高校生気分が抜け切らない今時の女子短大生を楽しく教えることの難し

さを痛感しています。楽しみどころか、苦渋と言ったほうがよいでしょう。

ところで、六月のサンシャインでの第二回総会には出席できまして、昔懐かしいお顔に接してまた感慨新たなものがありません。何か人生の活力に溢れた年代を感じましたね。ここでちょっと紹介したいことがあります。皆さんそれぞれの分野で活躍のことでしょうが、イギリス文化専攻（現在、イギリスコース）一回生の井上治子（旧姓、宮下）さんから面白い著書を頂戴しました。書名は「テネシーワルツは僕の子守歌」、中公文庫です。井上さんが生まれて九ヶ月のお子さんを連れての、一年間のアメリカ留学をユーモラスに描いています。もう一つは、同じくイギリス文化の二回生の百瀬侑子さんが、北浦和の国際交流基金日本語国際センターにお勤めでしたが、この七月にインドネシアの国立ガジャマダ大学に赴任されました。日本語教育を担当されるそうです。一つの例ですが、卒業生の皆さんが各方面で活躍されているのを耳にするたびに、教養学部の発展を心から感ぜずにはおられません。次回にお会い

できる日を楽しみにしています。  
(埼玉大学名誉教授・城西大学女子短期大学教授)

### 教養学部

### 創設期を懐古して

小菅 稔



教養学部同窓会の幹事さんから何か会誌に書くようにとの御連絡を頂きましたので、教養学部創設から私が停年退職した昭和六三年三月迄の二十三年間を振り返り、自ら、その間の思い出などを書いてみたいと思います。

私は埼玉大学が新制大学として文理学部、教育学部の二学部体制で発足した昭和二十四年から文理学部経済学科に奉職しており、その後、昭和四〇年文理学部が教養部、教養学部、経済学部、理工学部に発展的に解消を遂げた際、新設の教養学部現代文化課程の責任者として経済学科から移籍いたしました。

当時教養学部という名称は、国立大学では東大にあるだけで、学部としての知名度は低く、学部の性格づけに苦労しましたが、東大の教養学部を一面では参考にしつつ、埼玉大学教養部独自の特色を打ち出すべく大変な努力を払ったというのが偽りのないところです。

次に取り組んだのが学生の就職問題でした。そのため夏休みを返上して、当時の学部長故浜中先生を中心に平田、深見の両先生と私で、都内の旧制浦高出身者の就職先の会社中心に二十数社を訪問し、教養学部の説明から始まって最後に学生の就職依頼迄歩いて歩いたことなど今でも強く印象に残って居ります。

更に昭和四十五年の学園紛争も教養学部にとっての大事件でした。学園紛争の最後に、故和田先生と私が教授会を代表して紛争解決のために学生連と交渉したことも忘れ難い思い出です。その後情報解析センターや大学院が設置され、社会人の三次編入を実現するなど教養学部は大きく発展してきたのです。創設当時を考えると、よくこれだけ大きくなったものだ感慨一人のものがあります。

今年の埼玉大卒業式で経済学科当時と同僚であった某名誉教授と御会いした時、「教養学部は小菅先生が作ったようなものですか……」と言われた言葉に元氣づけられ、我武者らに教養学部発展のため努力してきた二十三年間の歳月を懐しく思い出している昨今です。

(埼玉大学名誉教授・埼玉工業大学教授)

### 私が赴任したころ

田代 脩

私が埼玉大学教養学部へ赴任したのは一九六八(昭和四三)年四月のこと、それは教養学部第一回生が四年次になったときである。当時のキャンパスは現在の北浦和公園であり、そこには旧制浦和高等学校以来のオンボロ木造校舎が立ち並んでいる。

そのころのことで、やはり強烈に印象に残っているのは、翌年一月からはじまっていたいわゆる「大学紛争」のことである。まだ助手の身分であった私も「団交」の席に引っぱり出され、「私は教授会メンバーではないから、教授会の決定については

なにもわからない」と答えると、「ナンセンス!!」とヤジリ倒された。やがて正門には机などが積みあげられてバリケードが構築され、キャンパスは封鎖された。

そこで何人かの有志が大学宿舍の狭いわが家を集まり、論文や史料の読み合わせなどの勉強会を続けたが、そのメンバーの一人が、今年から同窓会々長になられた武井(旧姓中川)尚君である。そのころ二歳半だった私の長女が、「ワタチモ、オベンキョウチュル」といって、絵本をかかえて勉強会に割り込んで来たのも、今ではなつかしい思い出となっている。その長女も今年の春、結婚したのだから、考えてみればずいぶんむかしのことであり、私自身もそれだけ馬齢を重ねてきたということになる。

発足以来二十七年、教養学部は多くのすぐれた人材を輩出し、昨年設立された同窓会も順調にすべり出している。同窓会および同窓生諸兄姉のますますの御発展を祈りたい。

(埼玉大学教養学部教授)

## 佐藤 敬 三

ドイツの社会学者ハーバマスが数年前訪日しシンポジウムが開かれたとき、それに参加した学者から聞いたのだが、ある質問者がサルトルにふれたところ、会場にはそんな古いことを、と問題にしない雰囲気があったという。しかしサルトルといえば、少なくとも教養学部が発足した一九六五年からかなりあとまで、非常に注目され、当時学生であった卒業生諸君の中にも熱心な読者は少なくなかっただろう。そのサルトルが古いとなると、今でも私がうちこんでいるサイバネティクスも、古いと一蹴されて不思議ではなくなる。

変わるのが当然で変わらぬ方がおかしいのかもしれないが、いずれにせよ、教養学部にも、発足から同窓会設立までの数十年、変わったことと変わらぬこと、色々と思ひ浮かべられる。とくに、定年での退官のほか、近年では英文学の西田、社会学の西の各教授が定年前に移籍されるなど、教官スタッフの激しい変化に感慨も一入である。故和田先生、長谷先生、

田森先生は、まだまだご活躍をと思われ、惜しまれてならない。

変化といえばこのところ、全国的な教養部改組の動きと共に、教養学部の変化を促す状況も生じている。しかしたとえ、組織 *and/or* 名称で変化があり、さらには大きな発展をとげるにしても、教養学部的なものの不滅性は保ち続けたいように思われてならない。その不滅性とは何かについて、卒業生、教官ともどもにさまざまな想いがあることだろう。

(埼玉大学教養学部教授)



## 《声の欄》

## 「団塊の世代」近況

沼田 安 功

JR 東海道線横浜駅。朝八時十二分。満員電車で詰め込まれる毎日(まさに塊り)。今日は間に合った。昨夜の酒が残って、思考は停止している。時折、今日の仕事の段取りが頭をかすめる。……昭和四三年春、みなそれぞれ挫折があつて教養学部に入った。この年は全国各地で学園紛争がおこり、安田講堂が焼け、前後してわが北浦和校舎もロックアウトされた。国際関係論コースの何人かが集まり、読書会に精出したのはこの頃。結構、勉強もした。恋もした(人もいた)。……川崎駅に着くと、乗客が入れ替わる。通勤客は馴れて静か。……昭和四七年、比較的景気の良い中で就職、結婚。子供も出来て、住所も二度、三度替り、ここまできた。我々は団塊の世代と呼ばれる世代の中核。何をすることも混雑して競争があった。これまでガムシヤラに走り続けてきたが、最近少しずつ昔を思い返すことが増え、感傷的になる。……品川に着くと、人

口密度が半分減ってホッとす。……年に一度の半日ドック。同じ様な年齢好の受診者達。それなりに年輪をきざんだ顔になってきている。最近職場の仲間でも体調を崩すものが増えてきた。高血圧、糖尿、胃潰瘍、豊かではないが、それなりに満たされた生活を送って来た。四十年。人生のほぼ折り返したこれから、どう生きていくのか先も見えない。……新橋着。座席にも空気が出来て、改めて新聞を拡げる。車内の空気もなごみ、同時にわれに帰る。……竹下派は騒々しいが、金丸、竹下

下のあとは小淵、羽田、橋本、小沢



懇親会で景品のパソコンを受取る沼田さん

と来て、すぐ鳩山の世代。いよいよ、われわれが社会を切り盛りしていくのか。団塊の諸君の健闘を祈る。：七日の同窓会で思いがけなく頂いたアップルのパソコンは娘達のおもちゃになりました。

(一九七二年・国際関係卒)

### おわび

大森(旧姓) まどか  
(若野)

教養学部同窓会の設立を、一般的な喜びと共に、自分が二十年前をふりかえる年、みつめられる日々を積んで来たのだという喜びを味わいました。しかし、第一回目の昨年は、経済的理由と共に過去からの恐怖を払いきれず欠席いたしました。

本年度は、ほとんどの事例に好転が見られ、なんとか出席いたしました。原稿依頼から確認の連絡をすぎ、今におよび、ろくでもない「おわび」を書いていきます。

けれど察してください。どんなに二十年間生きて来たか、どんなに混沌とした思いで大学の日々を思ったか、今、「不惑之年」として、どんなに自由に楽しく、次代の人々にメッセージを送ろうとしているか。

みなさん、ごめんなさい、そして、本当にありがとう。  
(一九七五年・哲学思想卒)

### 「同窓会」に思う

結城 公生

なぜか最近、同窓会に縁がある。埼玉大学の同窓会が結成され、今夏七月には関西在住のOB会も開かれた。それに小学校時代の旧友の少し遅めの結婚式で、幼なじみたちと久々に再会。その変貌ぶりにお互い驚きつつ「いっぺん集まろうか」。高校の同窓会からは会員名簿改訂版の案内が届いている。

社会に出て、はや十五年。同窓会の連絡が相次ぐというのは、認めたくはないがやはり「中年」の仲間入りということか。「あのころ」をしきりに懐かしむ年代に、足を突っ込み始めているだろうか。

ところで、このごろ関西の各大学とも、同窓会活動のテコ入れに熱心みたいだ。特に私学では力が入る。同窓会は寄付の大事な窓口となるばかりか、在校生の就職活動などにもOBたちは重要な存在らしい。「同窓のよしみ」というネットワークは、

OB自身にとっても仕事上、結構、役立っているようだ。

仕事柄、多くの人と出会うが、関西では当然ながら埼玉大OBにめぐたにお目にかからない。卒業後すぐに帰郷したため、学生時代の友人とも疎遠になりがちで、私にとって埼玉大はすっかり縁遠くなっていった。

同窓会の案内は、確かに稀薄になりつつある母校意識を呼び覚ます。しばし過ぎ去った学生時代を思い出させてもくれる。でも、懐かしむだけでは。より前向きな同窓会活動を期待したい。  
(一九七七年・現代社会卒)

### 日文名物研修旅行

吉田(旧姓) 博子  
(下出)

大学時代の思い出にはほろ苦いものがある。勉強、友達とのつき合い方、そして遊び、当時はそれなりに真剣だったのだからけれど幼く、中途はんばであったように思い出される。けれども、苦勞して準備していた演習のこと、今でも折々便りを交わしあうなつかしい友などキラッと光る思い出もわずかながら残っている。

しかしなんといいっても日本文化コースならではの思い出は十二月の研修旅行だと思ふ。届出をして修学院離宮、桂離宮といった所を見学できたり、長谷先生に連れられて京都御所の奥まった所を特別に案内していただいたこともあった。奈良は春日若宮のおん祭り、真夜中、まっ暗

やみの中の不思議な気分にはせられる儀式。宿は田代先生ご紹介のあの雰囲気たっぷりの日吉館。夜行列車や深夜バスなどを利用し一日中歩き続けても平気でいられたものである。若いからこそできた貴重な体験であったとつくづく思う。

そして、こういった所にはとても書けないようなエピソードや思い出も日文の方それぞれが持っていて、しゃるに違いない。そうではありませんか、日文の皆様…。  
(一九七九年・日本文化卒)

### 霧の街ロンドンより

遠藤(旧姓) 桂子  
(姉崎)

大学を卒業して十三年半。今、遠く離れたロンドンで生活しています。ここ数年、同じような夢を何回もみました。夢の中の私は大学生。

そして、いつも単位の計算に追われ、卒業に不可欠な講義を取り忘れ、続けて自主休講していた講義の試験がいつの間にか終わっていたり、その日程の情報が得られず走り回り、はた又、講義の申し込みの期日が過ぎてしまっていたりといった有様なのです。実際の大学生活では、単位不足や成績不振に悩まされた事は一度もなかったと思っっているのですが、それでも、この夢をみる度に大学での事を懐かしく思い出します。四年の間には数々の思い出があり、役員の方々を初めとして皆様のお骨折りのお陰で昨年同窓会が発足し、同窓会だよりも刊行されるとの事、大変嬉しく思っております。

一九八九年三月にロンドンに来て三年半、日本で考えていたロンドンのイメージや、私達が学校で習ったいわゆる日本の民主主義とこちらのデモクラシーとの違いにびっくりしながらも、日本と日本人の良さが日本にいた時よりもよく見えてきて、日本人であるということ誇りに感じる今日この頃です。

ところで霧の街ロンドンでは、霧にはあまりお目にかかれませんが、  
(一九七九年・現代社会学卒)

## 関西に来て感じたこと

手 嶋 (旧姓) 葉 子  
(鈴木)

京都へ引越して、三年半。我が家は伏見の古い町にあり、昼間歩いているのはお年寄りばかり。児童公園などなく、娘を遊ばせるのはいつもお寺や神社の境内である。

夫も私も関東出身。家の中では誰も関西弁をしゃべらない。もうすぐ二歳の娘は、やっと「おんも行くう。」と言えるようになったばかりだから、問題外。せいぜいテレビの漫才くらいだ。

私はなかなか関西弁に馴れず、関西弁を聞けば聞くほど、「意地でも関西弁なんてしゃべりたくない。」という思いを強くした。誰とも話したくない時期もあった。

異文化の中にいるのが心地よくて海外へ行くのは好きなのだが、関西にいると異和感や疎外感を感じてしまうのだ。何故だろう。なまじ日本人同志だからこそ何か割り切れないものがあるのだろうか。京都生まれの娘は、何の異和感もなく育っているのだろうか。

あれこれ言いながらも、京都での

生活は楽しい。四季折々の花、食べ物、お祭などから季節の移り変わりを感じとれるのは、京都に住んでこそ味わえる楽しみである。同窓会の関西支部発足で、人とのつながりができたこともうれしい。関西で再就職する気にもなつたし、関西ならではの生活を楽しんで行きたい。  
(一九八五年・中国文化卒)

## 「自転車」

森 田 文

先日、通勤に使っている自転車が故障してしまった。そのため学生時代以来久々に自転車の良さをしみじみと感じさせられた。

私は浦和に住んでいる。それならば大学へ通うのには便利だったはずだが、なまじ近いためにバスに乗って大学に行くよりも自宅から自転車に乗っていったほうが時間がかからない。どちらが良いか新入生の私は考え、自転車を選んだ。しばらくの間はよかったがそのうち一年中晴れの日はかりではないことに気が付かざるをえなくなった。ところが、もうその時点ではバスに乗ることなどうとうとしくなり、私のしたことは

すっかりとしたレインコートを買うことだった。一年生のときすっきり暗くなり、おまけに台風風の風雨の中を自転車仲間の友達と励ましあって何とか家へたどり着いたことは忘れられない思い出だ。ついには雪の日までも自転車である。

しかしどうにも成らないこともある。通学途中での突然の故障である。パンクした自転車をズルズルと引き摺りながら炎天下を歩いたこと、雨の中を歩いたことも何度かある。また飛び出していた針金をよけようとして電柱にぶつかり、大破した自転車を血だらけの足を引き摺りながら運んだこともあった。

いろいろあったがこの四年間の自転車通学のおかげで私は自転車が大好きになってしまった。ありふれた台詞だが自転車の魅力は風を感じることであり、自分の力で動かしている満足感ではないかと調子のよくなった自転車で颯爽と(?)通勤しながら思う今日この頃である。

(一九九二年・歴史学卒)

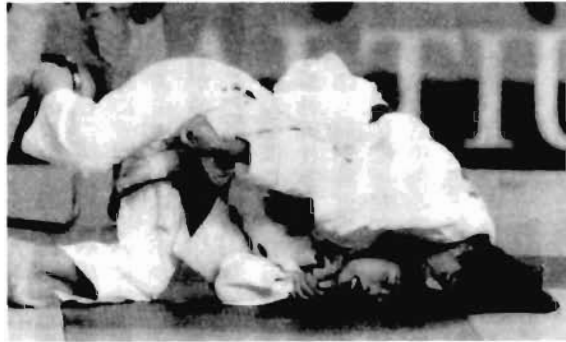
S 伝言板 S

★去る三月二七日、池袋サンシャイン60「桜の間」にて、この春埼玉大学を退官された「西先生を囲む集い」が開催されました。多数の方々から御出席やメッセージを頂戴し、盛況の内にパーティーを閉じることができましたこと、感謝の念とともに御報告申し上げます。(松岡真知子ほか実行委員一同)

★先のバルセロナ・オリンピックの女子柔道で、埼玉大学の溝口紀子さんが見事、銀メダルに輝きました。第一戦、二戦は寝技で、三回戦では世界チャンピオン・イタリアのジュンジに判定で勝ち進み、オランダのガルと対戦した準決勝では有効、効果と続けてポイントを奪われながらも最後の残り二八秒、内股から縦四方固めに持ち込んでの逆転勝ち。惜しくも決勝戦では地元スペインのムニョス選手に判定で敗れたものの、女子52キロ級で準優勝に輝いたことは大健闘でした。心からお祝い申し上げます。

昭和四十六年七月二三日、静岡県福田(ふくだ)町生まれ、二一歳。小学六年のとき山口香選手の試合を見て感激、柔道を始める。一九八八、八九、九二年に全日本女子体重別で優勝。九〇、九一年福岡国際女子柔道で二連覇。浜松西高校から埼玉大

学に進学、現在教育学部三年次生。(資料提供・スポーツニッポン新聞 松村久)



決勝戦でスペインのムニョス選手と対戦する溝口紀子選手(手前) (写真提供・朝日新聞東京本社)

★理事会では、同窓会が仲立ちをして来春、埼玉大学で在學生(四年次生)を対象に就職に向けての説明会を開き、官公庁や民間の各業種について幅広く知ってもらう機会を設けたいと考えております。まだ原案の段階で、詳細についてはこれから詰めて行きますが、協力して下さる官公庁・各民間企業の方はその旨御連絡下さい。(同窓会理事会)

S 投稿募集 S

「声の欄」は同窓生からの投稿と同窓会が依頼した原稿によって構成されています。内容は学生時代の思い出、近況、同窓会に期待することなど自由です。四〇〇〜六〇〇字程度(できれば縦書、ワープロ可)、今回の締め切りは来年の八月末日で

同窓会支部の設立に向けて

一年半の準備期間において設立された同窓会も、お蔭様で二年目を迎えました。これもひとえに先生方と同窓生の皆様方の御支援・御声援の賜物と感謝致しております。

さて、発足まもない現段階ではやむを得ないこととはいえ、地理的条件から会の運営がとくに埼玉や首都圏中心に偏りがちであることはやはり認めません。年に一度開催される「総会」にしても、地方在住の同窓生が遠路はるばる参加して下さることとはなかなか大変です。

そこで、今年度の活動の一つとして、新たに「支部」づくりを積極的に呼びかけていくこととなりました。最初は、県単位でできるだけ多くの支部を全国に作っていただき、そこを中心にして学年を越えた交流の場を設けることはできないだろうか、と考

す。多くの方々からの投稿をお待ちしております。

原稿には題名と名前、末尾には卒業年次とコース名を明記し、宛先は埼玉大学教養学部同窓会・同窓会だより係まで。知り合いの理事宛でも結構です。

なお、新たに設けました「伝言板」も大いに御利用下さい。

えております。そうなれば、やがては隣接する県の支部同士の間睦に、さらには九州や中国といったブロックごとのより大きな交流の機会へと発展する可能性が出てきます。卒業生の増加に伴って地方在住の同窓生の数も増えるでしょうし、首都圏や大都市で生活する卒業生にとってもそれぞれの故郷に「同窓会支部」が設立されることは何より心強く思われることでしょう。

そこで、取りあえず県支部のまとめ役を引き受けて下さりそうな方を急募しております。最初は正式にはなく、暫定的にでも結構です。どうか同窓会発展のために少しでも力をお貸し下さる意志のある方は、同窓会事務局または知り合いの役員に至急御連絡いただきしたいと思います。なお、半ば無理にお願いして次の四つの支部が内外に設置されました

ので、御報告申し上げます。該当する県または地域の在住者(あるいは郷里をもつ方)は、年賀状等、折を見て連絡を取ってみて下さい。

### 一、関西支部

酒井憲太郎(七〇・日文)

〒565 吹田市古江台五―一―一四〇九

須藤健一(六九・文人)

〒565 大阪府吹田市千里万博公園

一〇― 国立民族学博物館第四  
研究部

### 二、大分支部(兼九州ブロック)

詫磨秀一(七五・国関)

〒870 大分市上野町五―一―県職員

住宅は号五〇二

### 三、広島支部(兼中部ブロック)

長曾我部誠(七六・国関)

〒720 福山市明王台二―一五―新

住所)

### 四、山形支部(兼東北ブロック)

小熊正久(七五・哲学)

〒990 山形市東青田四―八―二二

### 五、ドイツ支部(兼ヨーロッパ

ブロック)

位高剛(八八・哲学) Komturplatz,

7800 Freiburg/Tel. 001-49761-

500251

大塚素見(八二・哲学) Zur Hege 11,

3550 Marburg/Tel. 06421-35357

## 《支部だより》

### 関西での

### 同窓生の集い

関西支部  
担当幹事 須藤 健 一

関西に六〇名もの同窓生がいることを教えてくれたのは、初代会長の酒井憲太郎さんである。関西住まいの彼を中心に今年四月に有志で酒を酌み交わし、関西支部結成へと動いた。七月に一回目の集いには短期間でのサーキュラーにもかかわらず、一四名が参加し、楽しい宴の一夜を過ごすことができた。

酒井さんをはじめ、有志の方々の大変なお骨折りで作成された同窓生名簿には、三千名近くの名前がつらねてある。私は一九六九年に北浦和駅前の旧浦高校舎の学部を出ているから、かれこれ二三年になる。総合文化とかいうわけのわからないものを専攻した。考古、地理、歴史、哲学などの混成部隊であったが、文化人類学の全科目が必須になっていた。故石田英一郎先生と、若き川田順造(東京外大A A 研・教授)・友枝啓

泰(国立民族学博物館・教授)両先生の指導で、両神村でのフィールドワークや研究会の後で、「総合鍋」というごった煮をつつき、夜遅くまで語り明かしたことを思い出す。

当時文化人類学は市民権をえておらず、我々は「はみ出し学問」と呼んでいた。国際交流とか異文化理解というご時世になり、我がはみ出し人生も、拾ってけるところがあり、オセアニアの島世界で調査研究を続けている。今、巨漢の王様のいる島、トンガ王国で人々と共に暮らし、近代化の功罪について学んでいる。

来年(平成五年度)の関西地区の同窓会は、田井竜一・手島(旧姓鈴木)葉子(一九八五年卒)さんの世話で、六月ごろに京都の賀茂川べりの栈敷で行うことにしている。多くの方々の参加を期待する。(一九六九年・文化人類学卒)

## 大分から埼玉、 そして埼玉から大分へ

大分県支部  
担当幹事 詫磨 秀 一

先日、大分県支部の幹事を仰せつかった詫磨という者です。昨年の同

窓会設立総会には、たまたま半年程の研修で上京中でしたので、運よく出席することができました。十数年ぶりに恩師や同期生と再会でき、楽しい時間を過ごさせていただきました。少し太ったり、頭のあたりが薄くなったりしていますが、昔の面影が残っていますので、誰であるかすぐわかりました。不思議なもので、学生時代には余り話をしたことがなくとも、このような場に居合わせる、何となく打ち解けてきます。総会終了後、同期の者が集まって一席を設け、お互いに懇談することができました。学生時代の話や、最近の自分たちの現況について欲談しながら感じたことは、『同窓』という共通の一点において話しあえる縁の不思議さと、卒業後十数年の時間が経過していることの現実(自分たちが共に過ごした時間はとりもどせない)でした。又、このような機会がもてることを楽しみにしています。

さて、大分県支部は、同窓会名簿を見ますと、私を含めて三人程卒業生が在住しているようです。未だ、支部の総会を開催していませんので、開催に向けて努力していきたいと思えます。今後共、御支援の程よろし



くお願い致します。(一九七五年・国際関係論卒)

## Judo, Tofu, Zen

ドイツ支部  
担当幹事 位 高 剛

このところ毎日テレビはバルセロナの熱戦を伝えています。こちらではもちろんドイツ選手の活躍する種目が主に取り上げられています。新聞で見ると限り日本選手団は苦戦しているようですが、それにもかかわらず多くの競技において日本の名前を聞きます。例えば千葉、前橋、大阪、東京。つまり最近、世界選手権などの多くの重要な国際試合が日本を舞台に行われ、その成績がその開催地とともに紹介されるのです。その反面日本の国技といわれる柔道(こちらではユードウといいますが)において日本選手の名前はあまり多く聞かれません。もはや柔道は日本のスポーツではないようです。柔道は国際化してしまっただけですね。国際化と言えば、僕は韓国製のソニー、シンガポール製のアイワを使っています。日本食が食べたくなるとアジア食品店へ行きアメリカ製の海苔、フ

ランス製の素麺、台湾製あるいは韓国製のインスタントラーメンを買います。ドイツ製の味噌、醤油、豆腐は普通のスーパーで買えますが、ドイツの豆腐は酸っぱいのでよくゆでる必要があります。また禅がアメリカ、フランスを通じて入って来ていて、いまブームになりかけているようです。フライブルク大学でも先学期、神学科のゼミにおいて、『ハイデガー哲学の禅仏教的受容』というタイトルで日本の京都学派の哲学者たちが扱われました。参加者は単なる異国趣味を越えて実存的、学問的に真剣に取り組んでいました。哲学科では『西洋の思索と東アジアの思索』というゼミが来学期開かれます。将来、禅がドイツの哲学宗教芸術におおきな影響をあたえることも十分考えられます。ひょっとしたら禅もまた柔道のように。(一九八八年・哲学・思想卒)

## 1991年度会計報告

同窓会会則第17条の規定に基づき、総会において報告され承された1991年度会計報告(3月31日現在)は以下のとおりです。

収	入	4,732,042
	同窓会準備会から引き継ぎ 会費(総会後) 会預金利息	2,641,122 2,070,000 20,920
	支	3,523,224
支	事務費	369,114
	郵便通信費 その他事務費	350,730 18,384
	会議費	218,576
	事業費	2,935,300
	名簿作成発送費 同窓会だより印刷費 名簿印刷費	383,300 151,822 2,400,412
次年度繰越金		1,208,818

なお、その後の状況については次をお読み下さい。

## 同窓会名簿の発刊と財政危機

同窓会の財政が早くも窮迫し始めました。このことは九月の理事会でも大きな衝撃をもって受けとめられ、議論の的となりました。しかし、この問題はある日突然生じたわけではありません。

同窓会は発足当初から会の設立とともに同窓会名簿の発刊を最大の目標に掲げてきました。そのため、会員の皆様にこれまで振り込んで頂いた名簿代を含む会費の大半は、連絡や情報収集のための通信を含めて、何らかの形で名簿の作成と発行に注がれてきた、と言っても過言ではありません。したがって、名簿の発刊と今回の財政危機とは密接な関係にあるのです。しかし、そこにはまた危機を脱出する道も同時に示されているため、順を追って説明する必要があります。

一、まず一昨年の三月、学部長を始め教養学部の方の呼び掛けにより卒業生の有志が大学に集まり、準備会が結成されました。と同時に、大学事務の協力を得ながら各コース別に名簿のデータを収集する作業が

始まり、次にこれを大学に保管されている資料とつき合わせて一つ一つ確認しながら、確認を終えた情報は順次手作業でパソコンに入力されて行きました。

しかし最初の一期生が卒業して以来すでに二二年、当然のことながら住所が変わっていたり姓が変わっていたり、調査活動は想像をはるかに越えて困難を極めました。その後、同窓会設立のお知らせとともに住所等の確認をお願いし、残る数百名の住所不明者についても「総会」や「同窓会だより」創刊号で皆様に問い合わせたことは、御承知のとおりです。さらに卒業年度別の調査が約一箇月間続けられ、連日役員総出で北海道から九州まで主として電話による追跡調査が行われました。またこの間に所在の分かった同窓生のものには、教養学部の在学生諸君にお願いして、住所などの確認と名簿掲載の承諾とを依頼しました。(詳しくは「同窓会名簿」の編集後記を御参照ください。)

二、このように先生方と同窓生の

皆様のあたたかい御理解と協力の下に、膨大な時間と労力を払って今年の二月、遂に卒業生二六〇〇名、在学生を加えると三〇〇〇名以上に上る「埼玉大学教養学部同窓会名簿」(一九九一年度版)が完成しました。

なかを御覧頂ければ分かるのとおり、同窓生の勤務先は、地方公務員や国家公務員など公僕に従事する者、銀行や生命保険から製造業に至る各種民間企業、ほとんど網羅していると言ってもよい各新聞社・出版社とテレビ局、小・中学校から大学にまで至る教職員など、教養学部の性格そのままに多岐にして多彩です。音楽家や彫刻家、作家や漫画家、さらには政治家といった個性的な方々もいらっしやいます。

聞くとところによれば、公務員として最大の集団である県庁職員は、実に七〇名に及ぶことが今回判明したのですが、その数の多さに一番驚いたのは当の卒業生たちであつたらしく、これまで連絡を取り合ったこともなければ、まして関を作るなど考えもしなかったとのこと。まことに教養学部の同窓らしい態度とも言えますが、同じような現象は民間において最大数の卒業生を抱える「あさ

ひ銀行」にも当てはまるらしく、見知らぬ学年でも他の大学や学部卒の行員とはどこか違った個性派が多い、と聞きます。

所在地は東京と埼玉を中心に首都圏が大半を占めますが、何割かの同窓生は全国各地に散在しております。またアメリカだけでなく、イギリス・ドイツ・フランス・オランダ・ベルギー・スイス・イタリア・ギリシア、中国・シンガポール・マレーシア等、記載されているだけでも三十三数名の同窓生が海外で活躍しております。しかし残念なことに、すでに一九名の物故者(六九年卒三名、九一年卒一名)が出ていることも、御報告しなければなりません。なかにはあの日航機墜落事故の犠牲者も含まれております。社会に出て間もなく病氣や事故で亡くなられた方々、名簿作成最後の段階で訃報を知りやむなく削除しなければならなかった例もありました。心から御冥福をお祈り申し上げます。

三、さて、九一年度の会計報告にあるとおり、三月三十一日の時点では約一二〇万円の繰越金が残っております。しかし四月以降、総会の案内(印刷代・郵送費)に約五六万、

事務費(名簿管理用パソコン購入)に五〇万、さらに総会の赤字補填のため約三〇万円の支出があったのに対して、収入は会費約六〇万円にとどまっています。さらにこの「同窓会だより」と名簿購入者への「名簿追補版」の経費数十万円を差し引くと、皆さんのお手許に届いている頃には三、四〇万円の赤字となっているはずです。

同窓会の財源は、三年分の会費と名簿代を含む「会費一万円」以外にはありません。入金して下さる方が一人でも増えればそれだけ財源は潤い、滞ればたちまち目減りする極めて単純な比例関係にあります。幸い、今年より卒業生(一四〇名)の全員が原則として会費を卒業時に払うこととなり、現在約半数の方から入金頂いております。しかし総体として見る場合、卒業者総数二七四〇名中、住所が確認されているのが二〇九五(不明者六五五)名、入金されている方が八五〇名とまだまだ一部の同窓生によって同窓会全体が支えられている、という逆三角形の構造が続いております。同じ同窓として学年を越えて親睦を深め、恩師を大切に、また力を合わせて母校と在学生のために(例えば就職の件など)尽力しよう、という同窓会設立の純粹

な趣旨を理解して頂き、名簿の発行を含めてこれまでの活動と経緯に御理解を賜るならば、名簿代五千円と三年分の会費五千円(年一六六六円)は、必ずしも高額とは言えないと思うのですが如何でしょうか。一人でも多くの方からの御協力を切にお願い致します。また不明の同窓生六五五名(名前は昨年発行の同窓会だよりに記載)の発見と連絡、そしてすでに入金済みの方々には、同期生や同じコースの同窓生への勧誘をお願い致します。もはや三十数名の役員だけの力では限界にきております。これ以上の支出を押えるために、総会の案内状と同窓会だよりは入金者へのみに限るべきだという考え方もありますが、これを避けあくまでも全員平等の原則を貫くためにも、是非同窓会会員の皆様に真剣に考えて頂きたいと思うのです。

同窓会を作ることは一九六九(昭和四四)年、教養学部の一期生が卒業して以来二十余年の悲願であった、と当時の先生方が回想しておられました。その間、何度か案が出ては立ち消えとなり、幾年を経てようやく誕生しました。このように同窓会は難産の末、産声を上げたばかりなのです。赤子には生命力はあっても一人です。生きて行く力はないように、誕

生して間もない同窓会も多くの人たちの献身的な努力を必要としています。誰かがどこかで面倒を見てくれるだろうという傍観者の態度では、たちまち榮養失調に陥ってしまい、お金以前の問題として、自分にとって埼玉大学とは何だったのか、教養学部の存在はどのような意味を持っているのかを一度自問し、一定の答えを出して頂けるならば、自らは開けて行くと思うのですが、如何でしょうか。名譽会員の先生方もこれまで以上にバック・アップして頂き、有形無形に会を盛り上げて頂きたいと存じます。退官された先生方だけでなく、現役の先生方の協力が不可欠です。

年代と世代にこそ違いはあるにせよ、同じ学舎(まなびや)に学び、人と出合い、青春の大事な一時を等しく過ごしました。一人一人の血の通った逞しい同窓会を、一緒につくって行こうではありませんか。

会費一万円(三年分の会費及び名簿代)  
郵便振替口座  
東京九一七〇〇四一二  
加入者名「埼玉大学教養学部同窓会」  
なお、これとは別に今回「寄付金」も受け付けております。額の多

少にかかわらず、同じ要領にてお振り込み下さい。(手続き上混乱を来す恐れがあるため、恐縮ですが必ず「寄付金」と用紙の裏に御記入下さい。個人または企業で「領収書」が必要な場合にも、その旨お書き添え下さい。)

参考までに「同窓会名簿」(写真)の目次だけを紹介しておきます。  
同窓会会長あいさつ／学長あいさつ(埼玉大学学長)／学部長あいさつ(教養学部長)／沿革／埼玉大学教養学部同窓会会則／凡例／特別会員名簿／正会員名簿(一九六九年卒業／一九九一年卒業)・準会員名簿／一九九一年度同窓会役員名簿／索引／編集後記／異動通知連絡カードはがき



見開きには大学の全景をとらえた航空写真(カラー)が掲載されているほか、北浦和駅前にあった旧文理学部校舎や現在のキャンパスの様子など、写真も多数収められています。

沿革では、埼玉大学の創立から教養学部各コースの誕生まで詳しい歴史が記されており、A4版一六七頁。――なお、名簿は三年に一回新たに改訂版を発行しますが、その間にも「追補版」を出して訂正に努めます。連絡先等に変更がある場合には、直ちに「事務局」まで葉書にて御連絡下さい。

同窓会活動報告

(’91・7～’92・9)

’91・7・20	第一回総会（於大宮パレスホテル）	’92・1・18	第四回理事会（於埼玉県労働会館）。次期総会、規約改正等協議。
8・24	第一回理事会（於浦和市中央公民館）。総会報告、名簿作成、事業計画等協議。	2・16	同窓会名簿（一九九一年度版）発刊。
9	名簿作成のための不明者調査。	2・29	臨時理事会（於浦和市中央公民館）。名簿発送作業。
9・28	第二回理事会（於同公民館）。同窓会だより、名簿作成等協議。	3・14	第五回理事会（於埼玉県労働会館）。文理学部同窓会との関係について、会計報告、事業報告、第二回総会、事務局体制等協議。
10・21	同窓会だより第一号刊行。	3・23	新卒業生勧誘（於卒業式会場）
11・30	臨時理事会（於同公民館）。名簿原稿確認作業。	5・16	第六回理事会（於埼玉県労働会館）。同窓会入会促進、財政問題、第二回総会等協議。
12・7	第三回理事会（於同公民館）。	6・6	第二回総会及びパーティー。（於池袋サンシャインシティ・プリンスホテル）
		9・5	’92年度第一回理事会（於埼玉県労働会館）。
			総会報告、新役員紹介

財政の窮状等につき協議。

備考 ここに掲載されているのは、同窓会主催の事業及び全体的な活動の報告であり、個々の担当部門における活動はふくまれておりません。

募集

同窓会では次の事柄と活動して下さる人とを募集致しております。

- 一、同窓会の名称（「—会」）。
- 二、同窓会だよりの中の「声の欄」と「伝言板」（本文参照）。
- 三、「短歌」または「俳句」。
- 四、同窓会では現在、同窓生有志による(ア)囲碁・将棋の会、(イ)野球大会、(ウ)ハイキング会、(エ)ゴルフ会あるいは(オ)海外旅行などの企画をもってありますが、今のスタッフではとてもそこまで手が回りません。そこで、それぞれの企画のどれか一つを専属で運営・実行して下さる方を求めています。例えば、大学のグラウンドを借りて野球の親善試合に汗を流したり、家族連れで一緒に山や川に出かけてみるのはいかがでしょう。野球などのスポーツで鍛えていらっしゃる方、囲碁・将棋やゴルフの得意な方、よろしくお願いします。

五、地方あるいは海外に在住の人で、同窓会支部の設立に協力して下さる方（本文参照）。

六、理事会の運営に参加し、同窓会のために積極的に活動して下さる方（理事会は隔月に一回程度、土曜日の三時頃から行われております）。

以上、いづれかに協力して下さる意志のある方は、なるべく早めに「同窓会事務局」か、または知り合いの役員のところまで御一報下さい。問い合わせや他薦も歓迎します。誰かがやってくれるだろうというだけではいつまでたっても事は始まりません。一肌脱ごうという積極的な心意気を期待しております。

編集後記

今年、新たに新聞社に勤務される二人の専門家に加わって頂きました。今後とも紙面の充実を努めるつもりでおります。叱咤激励よろしく申し上げます。感想や御意見などお寄せ下さい。

編集・武井尚（70日文）、岡田道程（76哲）、兼子順（77日文）、萬年拓郎（85国）。編集顧問・榎木誠（70中）、松村久（71中）。